

環境経営レポート



発行日: 2024年12月26日

株式会社 平組



ホームページはこちらから

2024年3月8日・9日の2日間、お仕事スタジアムに参加しました。

お仕事スタジアムは、麻生専門学校グループが主催するイベントで、高校生が将来の職業を考えるきっかけを提供することを目的としています。

福岡県内外の高校生及び教職員の方々に参加していただき、
職場体験では、重機試乗体験してもらいました。

平組を支える人材にであえますように。



安全・仕事・SDGs 目標宣言

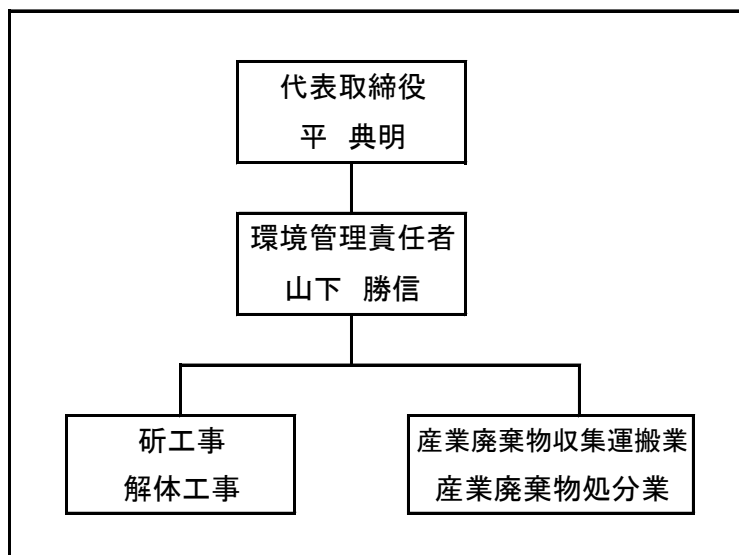
[illegible]

目 次

1. 組織の概要		1 p.
2. 認証・登録の対象範囲		5 p.
3. 環境経営方針		6 p.
4. 環境経営目標		7 p.
5. 環境経営計画		8 p.
6. 環境目標の実績		9 p.
7. 環境活動計画の取組結果とその評価 並びに次年度の環境経営目標および環境経営計画		10 p.
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価 の結果並びに違反、訴訟等の有無		12 p.
9. 代表者による全体評価と見直しの結果		12 p.

1. 組織の概要

- 1) 事業所名 株式会社 平組
代表者氏名 代表取締役 平 典明
- 2) 所在地 本社 〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南6丁目13番21号
平組リサイクルファブ 〒811-1246 福岡県那珂川市大字西畑字原ノ田477番
- 3) 環境管理責任者 山下 勝信
担当者氏名 山下 勝信
連絡先 TEL (092)441-2238 FAX (092)441-2239
- 4) 事業の内容 斫工事・解体工事
産業廃棄物の収集運搬業・処分業(中間処理)
- 5) 事業の規模
- ・ 法人設立年月日 1971年6月19日
 - ・ 資本金 3,000 万円
 - ・ 売上高 301,000 千円
 - ・ 従業員数 22人
 - ・ 事業所の延べ床面積 135㎡
 - ・ 平組リサイクルファブの延べ敷地面積 2,447.06㎡
 - ・ 事業年度 10月～翌年9月
 - ・ 組織図



6) 許可の内容

建設業許可

特定建設業許可

福岡県知事 許可(特一2)第 16936号

事業計画の概要

許可を受けた産業廃棄物(9種類)について事業者から運搬の委託を受けた場合には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく契約を締結し、排出業者からマニフェストの交付を受け、指定された許可処分業者の事業場に運搬する。

産業廃棄物収集運搬業

産業廃棄物収集運搬業					許可項目														
都道府県及び政令都市	積替保管		許可の年月日 及び 有効年月日	許可番号	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず類	がれき類	ばいじん
	有	無																	
福岡県		●	令和3年11月19日 令和8年11月18日	第04000006876号	●					●	●	●	●		●	●	●	●	
佐賀県		●	令和3年10月17日 令和8年10月16日	第04101006876号	●					●	●	●	●		●	●	●	●	
熊本県		●	令和3年11月10日 令和8年11月9日	第04305006876号	●					●	●	●	●		●	●	●	●	

事業計画の概要

許可を受けた産業廃棄物(8種類)について事業者から運搬の委託を受けた場合には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく契約を締結し、排出業者からマニフェストの交付を受け、産業廃棄物を受け入れ中間処理する(選別)。処理能力40.8t/日(8時間)(更新後処理能力)

産業廃棄物処分業(選別)

産業廃棄物処分業				許可項目														
都道府県及び 政令都市	許可の年月日 及び 有効年月日	許可番号	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず類	がれき類	ばいじん	
福岡県	令和5年4月15日 令和10年4月14日	第04020006876号						●	●	●	●		●	●	●	●		

7)-1 施設等の状況(運搬車両の種類と台数)

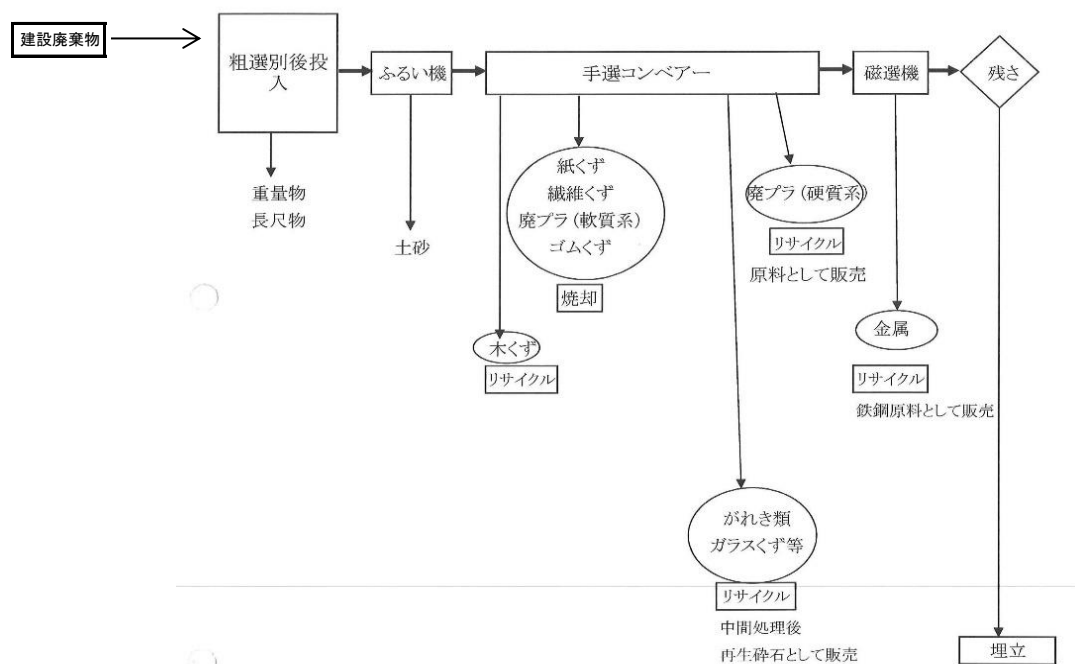
4トフックロール車	:	2台
3トユニック車	:	1台
3トフックロール車	:	1台
2トフックロール車	:	1台
2ト平ボデー車	:	1台
1.25トWキャブ	:	1台
軽トラック	:	1台
軽バン	:	1台
軽箱形	:	3台

7)-2 施設等の状況(中間処理)

油圧ショベル	:	4台
ふるい機	:	1台
磁選機	:	1台
破碎分離機	:	1台
ベルトコンベアー	:	2台

7)-3 中間処理フロー

③ 処理フロー(処理品目及び処理手順)



8) 処理実績

2023 年 (2023 年 10 月 ~ 2024 年 9 月)

処理方法等		廃棄物等種類	処分方法等	処理量(t)
(i)収集運搬		コンクリート塊		75.38
		As・Co塊		19.00
		建設混合廃棄物		251.02
		廃プラスチック		5.25
		金属くず		1.15
		ガラスくず		0
		燃え殻		0
		紙くず		0
		木くず		45.75
		繊維くず		0
		ゴムくず		0
		石綿含有廃棄物		2.83
		廃石膏ボード		15.66
		その他のがれき類		36.96
		土		41.7
		自然石		0.00
		蛍光管		0
	収集運搬量合計			
(ii)中間処理		コンクリート塊	選別	81
		As・Co塊	選別	4
		建設混合廃棄物	選別	276.78
		廃プラスチック	選別	5.20
		金属くず	選別	1.15
		ガラスくず	選別	0
		紙くず	選別	0
		木くず	選別	44.45
		繊維くず	選別	0
		ゴムくず	選別	0
		廃石膏ボード	選別	15.00
		その他のがれき類	選別	43.14
		土	選別	41.70
		自然石	選別	0.00
		蛍光管	選別	0
うち 再資源化 等 (自社での 再生)	碎石	選別・破碎後路盤材・埋め戻し材化		
	埋め戻し土	選別後埋め戻し材化		
	石膏パウダー	選別・破碎後埋め戻し材化		
	再資源化等量小計			
中間処理合計				512.42

処理方法等		廃棄物等種類	処分方法等	処理量(t)
(iv)中間 処理後の 産業廃棄 物	最終処分 (埋立)	残渣(可燃物)	焼却後・管理型埋立	50.57
		残渣(安定型物)	安定型埋立(委託)	0
		残渣(管理型物)	管理型埋立(委託)	57.92
		最終処分量小計		
	再資源化 等 (委託先で の再生)	コンクリート塊	破碎・選別選別後路盤材化	63.00
		As・Co塊	破碎後原材料・路盤材化	16.00
		その他のがれき	選別後原材料化	4.00
		建設混合廃棄物	選別後原材料化	0
		廃プラスチック	選別後原材料化	18.99
		金属くず	原材料化	25.40
		ガラスくず		0
		紙くず		5.13
		木くず	破碎後原材料化	78.73
		繊維くず		0
		ゴムくず		0.2
		廃石膏ボード	破碎後原材料化	37.25
		石	破碎後埋め戻し材・路盤材化	0
		畳	破碎後原材料化	1.5
		ペットボトル	破碎後原材料化	0.03
		蛍光管	破碎後原材料化	0
再資源化等量小計			250.23	
中間処理後処分量合計				358.72
(iii)最終処分				
最終処分量合計				0

2. 認証・登録の対象範囲

事業活動	斫工事・解体工事、産業廃棄物の収集運搬業・処分業(中間処理)
対象事業所	本社、平組リサイクルファブ

株式会社平組 環境経営方針

株式会社平組は、斫り工事・解体工事、産業廃棄物の収集運搬業及び処分業における事業活動が地球環境、地域環境と深く関連していることを認識し、全社員がそれぞれの持ち場において、環境保全に幅広く積極的に取り組むことを推進します。

1. 事業活動を通して環境負荷低減活動に努めます。
 - (1) 使用エネルギー（電気、A重油、軽油、ガソリン）を節約します。
 - (2) 廃棄物排出量削減とリサイクルと適正処理を推進します。
 - (3) 本社・建設工事で発生する廃棄物排出量の削減及びリサイクルを推進します。
 - (4) 節水に努めます。
2. 環境関連法規を遵守します。
3. 環境教育を実施し、全社員の環境方針の理解と環境に関する意識向上に努めます
4. 環境マネジメントシステムの継続的な改善を行います。
4. 積極的に機会を捉え、社員の資格取得・講習会の参加に努めます。
5. S D G s を積極的に組み込み企業価値の向上に努めます。

この環境方針は社内外に公表します

制定日：2017年 10月 1日

改定日：2024年 3月 1日

株式会社 平組
代表取締役 平 典明

4 環境経営目標

環境目標	SDGs	サイト 区分	単位	基準年	目 標				
				2014年度	2023年度 (6.5%削減)	2024年度 (7.0%削減)	2025年度 (7.5%削減)	2026年度 (8.0%削減)	
				2014年10月～ 2015年9月	2023年10月～ 2024年9月	2024年10月～ 2025年9月	2025年10月～ 2026年9月	2026年10月～ 2027年9月	
1. 二酸化炭素排出量の削減		全社	kg-CO ₂	112212	104918 (△6.5%)	104357 (△7.0%)	103796 (△7.5%)	103235 (△8.0%)	
① 電気使用量の削減		本社	kWh	14,736	13,778 (△6.5%)	13,704 (△7.0%)	13,630 (△7.5%)	13,557 (△8.0%)	
		現場	kWh		使用量の把握は行うが、目標設定せず節電に取り組む。				
		全社	L	6,912	6462 (△6.5%)	6,428 (△7.0%)	6393 (△7.5%)	6359 (△8.0%)	
		全社	L	30,381	28406 (△6.5%)	28254 (△7.0%)	28102 (△7.5%)	27950 (△8.0%)	
		リサイクル ルファブ	L	3,281	3067 (△6.5%)	3051 (△7.0%)	3034 (△7.5%)	3018 (△8.0%)	
2		本社	kg	2016年度基準 469	443.2 (△5.5%)	440.8 (△6.0%)	438.5 (△6.5%)	436.1 (△7.0%)	
		現場	%	95%以上	95%以上	95%以上	95%以上	95%以上	
3		本社	m ³	60.3	56.3 (△6.5%)	56 (△7.0%)	55.7 (△7.5%)	55.4 (△8.0%)	
		リサイクル ルファブ	m ³	2016年度基準 84	79.3 (△5.5%)	78.9 (△6.0%)	78.5 (△6.5%)	78.1 (△7.0%)	
		現場	m ³	1,834	使用量の把握は行うが、目標設定せず節水に取り組む。				
4. 化学物質使用量の把握と 適正管理		現場		—	化学物質を使用する場合には適正管理に務める。				
5. 資格取得・講習会参加		全社	名	—	6名以上	6名以上	6名以上	6名以上	
6. 施工の提案及び研修会への参加		全社	提案件数	4	6件以上	6件以上	6件以上	6件以上	
		全社	研修会参 加回数	0	6回以上	6回以上	6回以上	6回以上	

備考

1. 購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.371kg-CO₂／kWh(九州電力 2020年度調整後排出係数)を使用した。
2. 二酸化炭素排出量の目標では、アセチレンは割合が非常に少ないので、除いて数値目標を立てた。

5 環境経営計画

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		サイト 区分	達成手段		責任者	期 間											
						10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	電気使用量の削減	本社	1	エアコン設定温度を決め、実行する	山下・安藤							通					年
			2	不用な照明・パソコンの消灯	山下・安藤							通					年
		現場	1	エアコン設定温度を決め、実行する	秋山・重松							通					年
			2	不用な照明・パソコンの消灯	秋山・重松							通					年
2	ガソリン使用量の削減	全社	1	アイドリングストップ等運転方法の配慮(急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止等)を行う。	山下							通					年
			2	車輛の整備・点検を行う。								通					年
3	軽油使用量の削減	全社	1	アイドリングストップ等運転方法の配慮(急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止等)を行う。	秋山							通					年
			2	車輛の整備・点検を行う。								通					年
3	A重油使用量の削減	リサイクル ファブ	1	不必要な発電機の運転をしない。	山口							通					年
			2	発電機の点検を行う。								通					年

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標		サイト 区分	達成手段		責任者	期 間											
						10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	一般廃棄物排出量の削減	本社	1	使用済み用紙の裏紙を利用する。	山下・安藤							通					年
			2	紙、金属缶、ペットボトル分別を徹底する。	山下・安藤							通					年
2	産業廃棄物の再資源化率の向上	現場	1	特定建設資材廃棄物(建設発生木材、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊)の分別の徹底。	重松							通					年
			2	分別解体により、混合廃棄物の減容を図る	重松							通					年

3. 水使用量の削減

取組目標		サイト 区分	達成手段		責任者	期 間											
						10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	水使用量の削減	本社	1	日常的な節水を励行。	安藤							通					年
			2	社用車の洗車を必要最小限に留め、洗車に使用するホースの先にはストッパーをつける。	秋山							通					年
1	水使用量の削減	リサイ クル ファブ	1	日常的な節水を励行。	秋山							通					年
1	水使用量の削減	現場	1	水タンク注水時はストッパーをつけ、溢水させない。	秋山							通					年
			2	手洗い、洗車は節水を心がける。	秋山							通					年

4. 化学物質使用の適正管理

取組目標		サイト 区分	達成手段		責任者	期 間											
						10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	化学物質の適正管理	現場	1	塗料、接着剤、吹付剤その他の化学物質を使用するときは当該物質の化学物質安全性データシート(俗称SDSまたはMSDS)を取り寄せ、万に備える。	秋山							通					年

5. 資格取得・講習会参加

取組目標		サイト 区分	達成手段		責任者	期 間											
						10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	資格取得	全社	1	機会を捉え、積極的に資格取得・講習会の参加に努める。	山下												
	講習会参加																

6. 施工の提案及び研修会への参加

取組目標		サイト 区分	達成手段		責任者	期 間											
						10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	施工提案	全社	1	総合評価入札参加を推進する	山下							通					年
2	研修会参加	全社	1	解体工事勉強会等、研修会開催時には積極的に参加する。	山下							通					年
			2	業界紙、官庁公告、インターネット等の情報収集	山下							通					年

6. 環境経営目標の実績

活動期間：(2023年10月～2024年9月)

	単位	基準 2014年10月 ～2015年9月	(2023年10月～2024年9月)			
			目標	実績	差異	結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	112,212	104,918	88,628.08	▲ 16,289.92	目標を達成した。 全社員の取組意識の向上がうかがえる。 今後も取組を継続する。
(1) 電気使用量削減						
現場	現場の使用量の把握は行うが、削減目標に設定することはない。					
本社	kWh	14,736	13,778	15,370.00	1,592.00	未達となった。 夏場の猛暑による電力需要増加の影響が大きいと思われる。 今後も取り組みを継続する。
(2) ガソリン使用量削減(全社)	L	6,912	6,462	7,382.11	920.11	未達となった。 事務所スタッフの増員に伴い営業車(ガソリン車)が増車された影響がうかがわれる。 今後も取組を継続する。
(3) 軽油使用量削減(全社)	L	30,381	28,406	25,301.00	▲ 3,105.00	目標を達成した。
(4) A重油使用量の削減(全社)	L	3,281	3,067	0	▲ 3,067	目標を達成した。 現在重油の使用を停止し軽油に切り替えている。 今後A重油の使用を廃止して、目標の再設定を検討している。
2. 廃棄物排出量の削減	t					
一般廃棄物排出量の削減	kg	データなし	443.2	592.50	149.30	未達。 近年の業績の伸びに伴う事務量の増加、及び事務所スタッフ増も影響している。 全体的な排出量の削減を追い求めるのは限界があるように思える。引き続き目標の再設定を検討する。
産業廃棄物の再資源化率の向上	%	95%	95%≧	98.1%	▲ 3.1%	目標を達成した。 今年度より対象のサイト区分をリサイクルファブから現場へ変更した。 引き続き取り組みを進めていく。
3. 水使用量の削減						
本社	m ³	60.3	56.3	34.0	▲ 22.3	目標を達成した。 今後も取組を継続する。
リサイクルファブ	m ³	—	79.3	26.6	▲ 52.7	目標を達成した。 新リサイクルファブは井戸のため上水を使用しないが、使用量については今後とも把握を続ける。
4. 化学物質使用量の削減						化学物質の使用無し。
5. 資格取得・講習会参加	名	—	6以上	7	+1	目標を達成した。 今後も積極的に資格取得・講習会参加を進めていく。
6. 本業による環境貢献 施工の提案	件	4	6以上	0	▲ 6	今期は提案の機会がなかった。 今後も積極的に施工の提案をしていく。
研修会への参加	回	0	6以上	26	+20	積極的に参加することができた。 今後も積極的に機会をみて研修会へ参加していく。

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.371kg-CO₂/kWh(九州電力 2020年度調整後排出係数)を使用した。

7. 環境経営計画の取組結果とその評価並びに次年度の環境経営目標および環境経営計画

7-1. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組み内容

1. 二酸化炭素排出量の削減

活動項目		今年度の評価	次年度の取組内容
電気使用量削減	エアコン設定温度を決め、実行する。 不用な照明・パソコンの消灯。	全体の二酸化炭素排出量は目標を達成。 電気使用量削減は未達となった。夏期の猛暑による電力需要増加の影響が大きいと思われる。 ガソリン使用料削減は未達となった。事務所スタッフの増員に伴い営業車（ガソリン車）が増車された影響がうかがわれる。取り組みは継続します。	これまでの取組を継続する。引き続き、駐停車中のエンジンの停止や不要な照明の消灯やパソコンの電源オフなどに対する社員の意識向上を図る取組（掲示等）を行います。 アイドリングストップのマニュアル（省エネ運転マニュアル）を現場に配布しより一層の意識向上に努めます。 電気自動車（EV）、燃料電池車（FCV）、プラグインハイブリッド車（PHEV）、天然ガス車（NGV）、クリーンディーゼル車等機会を捉えてより環境に配慮した車両への入れ替え検討します。
ガソリン使用量削減	アイドリングストップ等運転方法の配慮（急発進急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジンの停止等）を行う。		
	車両の整備点検を行う。		
軽油使用量削減	アイドリングストップ等運転方法の配慮（急発進急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジンの停止等）を行う。		
	車両の整備点検を行う。		
重油使用量削減	不必要な発電機の運転をしない。		
	発電機の点検を行う。		

2. 廃棄物排出量の削減

活動項目		今年度の評価	次年度の取組内容
一般廃棄物	使用済み用紙の裏紙を利用する。 紙、金属缶、ペットボトル等分別回収を進める。	産業廃棄物は目標を達成したが、一般廃棄物が未達となった。 一般廃棄物は目標に対して未達の状態が続いている主な要因は近年の売り上げ増に伴う事務量の増加及び事務所スタッフが増えた事も要因ではないかと考えられます。 産業廃棄物は、今期より対象のサイト区分をリサイクルファブから現場に変更しました。	一般廃棄物については今年度の取組を継続するが全体的な排出量の抑削減は限界があるようにも思われる。現状は古紙やアルミ缶等の金属類等リサイクルしている発生材も廃棄物としての排出量に含めている。3R、主にリサイクルを含めた見直しも今後必要かと思われる改定の検討を続けています。 産業廃棄物については、今後も再資源化率の維持・向上に努めていきます。
産業廃棄物	特定建設資材廃棄物（建設発生木材、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊）の分別を徹底する。		
	分別解体により、混合廃棄物の減量を図る。		

3. 水使用量の削減

活動項目		今年度の評価	次年度の取組内容
上水	日常的な節水を励行。	本社、リサイクルファブ共に目標を達成した。	本社・リサイクルファブ共これまでの取組を継続し、引き続き目標達成に努める。新リサイクルファブは井戸のため上水を使用しないが、使用量については今後とも把握を続ける。
	社用車の洗車を必要最低限に留め、洗車に使用するホースの先にはストッパーをつける。		
	水タンク注水時はストッパーをつけ、溢水させない。		
	手洗い、洗車は節水を心がける。		

4. 化学物質使用の適正管理

活動項目	今年度の評価	次年度の取組内容
塗料、接着剤、吹き付け剤その他の化学物質を使用するときは当該物質の化学物質安全性データシート（SDS）を取り寄せる。	化学物質の使用は無かった。	これまでの取組を継続する。

5. 資格取得・講習会参加

活動項目	今年度の評価	次年度の取組内容
機会を捉え、積極的に資格取得・講習会参加に努める。	目標を達成。今期は7名の資格取得・講習会の参加が出来た。	取組を継続する。

6. 施工の提案及び研修会への参加

活動項目		今年度の評価	次年度の取組内容
施工提案	総合評価入札参加を推進する。	今期は現在公共工事施工中でできかいがなかった。今後も積極的に施工の提案をしていく。	これまでの取組を継続する。
研修会参加	解体工事勉強会等、研修会開催時には積極的に参加する。	積極的に参加することができた。	
	業界紙、官庁公告、インターネット等の情報収集	情報収集はできていると思われる。	

7-2. 次年度の環境経営目標および環境経営計画

1. 次年度の環境経営目標: 現行の環境経営目標を継続する

2. 次年度の環境経営計画: 現行の環境経営計画を継続する

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

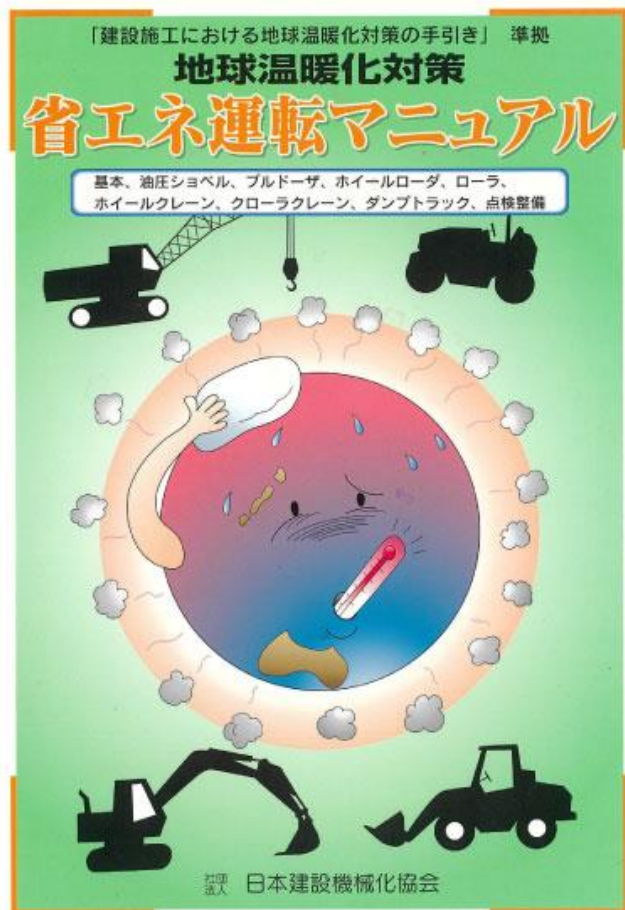
当社の事業活動、製品及びサービスに適用される環境関連法規等は次のとおりです。

適用される法規等	適用される事項(施設・物質・活動等)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理・排出 マニフェストの交付・回収・保管の適正処理 産業廃棄物処理業上の遵守事項
建設リサイクル法	対象建設工事は4品目の分別解体と再資源化
騒音規制法	特定建設作業の届出 建設現場での機械使用時の騒音レベルの遵守
振動規制法	特定建設作業の届出 建設現場での機械使用時の振動レベルの遵守
大気汚染防止法	特定粉じん排出等作業の実施の届出 特定粉じん排出等作業基準の遵守義務
労働安全衛生法	健康診断の実施 保護具の適正使用
石綿障害予防規則	事前調査の実施 保護具の適正使用
消防法	危険物貯蔵施設該当の場合は当該市町村の許可を受ける
家電リサイクル法	特定家庭用機器の適正処理 自社装置更新時は確認をする
高圧ガス保安法	保安上の適正処置 自社装置更新時は確認をする
フロン排出抑制法	業務用エアコン設備の簡易点検

2024年12月に上記の環境関連法規等の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

SDGs宣言により具体的な個人目標を掲げることで、社員一人一人の環境意識が高まってきています。
新施設は全天候型になったため雨天作業でも効率が上がると共に紙くずのリサイクル率が向上したと考えている。又鉄くずバツカンを移動式コンテナへ変更したり分別ヤードのレイアウトを工夫して作業効率が上がってきました。
今後、環境配慮型解体工事の提案の強化を図る。
CO2削減機器の採用(電動バイク他)の検討をする。
CCUSを活用した技能者の能力評価を進める。
必要な資格の取得状況の見えるかのため資格者一覧表を会議室に掲示する。
質の高い再資源化を推進するため日建連が推奨する廃プラスチックのさらなる分別の内容の勉強を行い今後の準備とする。
上記採用の検討を視野に入れ今後の活動を進めてきます。



省エネ運転マニュアル。
建設工事機械に特化しているので、
重宝しています。

我が社のバイク部隊。
次年度より順次電動バイクへ
入替の検討をしています。

